

統合失調症、うつで入院し、作業療法のプログラムの時間に描いた作品です。画用紙、ボールペン、色鉛筆を使い描きました。

幼いころから乗り物が好きで、近所を走る鉄道を、今は亡き父と一緒によく見に行きました。遠近感の表現も父から教わりました。どこの何線という定義はまったくない空想ですが、イメージとしては春が訪れた、大糸線風に描いてみました。

まさか雑誌の表紙に飾られるとは思っていませんでした。かかわってくださったK先生、N先生他、関係者の皆様に感謝しております。ありがとうございました。



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



西村 勝「思い出の大阪・ミナミ」

新聞で色を探すのに苦労した。(西村 勝)

作者は集団就職で来阪し、大阪ミナミの洋食店に入職。多忙な仕事の中、連続飲酒状態となり入院。何度かの入院の後、現在は断酒しデイケアに通所しています。

デイケアでは箸袋づくり等、緻密な作業を行うが、近ごろは手指の動かしくさを感じ、作業を負担と感じていました。スタッフと作業を見直し、新聞紙を使った貼り絵を始めたところ、一挙にのめり込み、毎日作品づくりに励んでいます。

今回は「人生で一番の思い出の場所」である、50年前のミナミを貼り絵で再現しました。(担当 OT：林 直樹)